

(二) 通語に用ひ代へさすべきこと (是には保育者が能く幼児語を用ふる事をせず幼児が之を用ふるは禁せず唯保育者が常に普通の言葉を用ふる様にすれば自然なる)

(ホ) 組全體の幼児何れも臆せず保育者と親み話すの習慣をつくる様注意すべきこと

(ト) 祝祭日其他の定めたる挨拶例へは「結構な初春で御座います」とか「天長節おめでたう御座います」等の如き簡單にして完全な言葉は當日近くに於て幼児全体に話させ一つには話し方の練習一つには實用に致させるがよろしきこと

(チ) 一つの間に幼児等争ひて答へんとし喧噪に陥りし時不適當なる所置に出で幼児をして躊躇して答へざるの弊に陥らしめざる様注意すべきこと

(リ) 話し方の練習は常に談話の時間に於けるの

(三) 特に訓話及び庶物話につきての注意
みならず他の室内保育時間並びに外遊の際に於ける保育者と幼児、幼児相互の問答雑談等により絶えず行はるゝものですから以上の諸注意は是等の場合にも適用せらるゝこと、

(第一) 訓話
(イ) 訓話は幼児の善良なる感情を養はんために

なざるゝものなり
訓話といひ修身談と申しても幼稚園では此等の談話中に含まるゝ格言又は訓誡の語等の理窟や道理で幼児の行爲を律しやうといふのではありません此種の談話をさかす間に幼児をして善は喜び悪は惡むの良感情を養はしめる事により善良なる心の傾向をつけ不知不識の間に善は喜んで之を行ひ悪は厭うて之を避くると云ふ様に致さずその目的で御座いますから餘り訓誡的に無味乾燥的に話し去て一人たる者は當に斯の如くたるべしと、結んだのでは折角の好材料

も無駄になつてしまひます、幼児等は理屈や格言やを記憶して之で心と支配し行爲を左右し得るほど知的發達を致して居りませぬ寧ろ趣味あり興深き一片の談話として面白く感せしむる間に善なる感情を起させれば宜しいので此の邊が中等教育等に於ける修身談と大に趣を異にして居る所です

(ロ) 又訓話としての價値は一つの談話

教訓の含まれたものを澤山に話して聞かせるよりも筋面白き一談話中に種々の善良なる模範事項の含まれて居るものが勝つて居る様で御座います若しも一人の理想的幼児を假想し之に有ゆる方面の善性を附したる長篇の面白き談話を作り之を一期或是一年間の談話材料にすることが出来ましたならば幼児等は該談話の主人公を恰も生命ある我友の如く考へ做して深く之に同情し其善性にならばはむことを思ふに至るべく徳性涵養上定めし有益なる事と存せられます

(イ) 尚訓話其の他に於て養はしむべき道徳的觀

念は他日發展すべき凡ての道徳の基礎となるべきものを與ふるに止まりませぬので即ち父母祖父母兄弟姉妹下婢下男等家族に對する心得とか友達年長者教師等家庭以外即ち社會に對する道義心の基礎とか動植物愛憐の情家具物品を愛用すべき事及び自己に關する心得としては危険を避くべき事清潔を重すべき事自治の習慣の嘉すべき事等の類を種々の談話材料により不知不識了解せしむればよろしいので幼児不相應なるものは強いて話すも無効です

(第二) 庶物話

庶物話とは天然物(即ち動植(礦)物)並びに人工品、自然界の現象等に關する談話を云ふので之により幼児の觀念を明了にし思想界を廣むると共に注意力觀察力を養ひ研究心を起さしめ併せて話し方の練習を致すを主なる要旨といふて、居ります之に關する注意條項は

(イ) 庶物話をなさんと欲すれば保育者まづ庶物

- (ホ) 關する明瞭正確なる知識を有すべきこと
 幼兒には保育者の説明が眞理として聞きとらるゝので御座いますから保育者にして若し誤りたる或は不正確なる觀念を有して居りまするならば幼兒等は之によりて知らざるに劣る結果を得らるゝので御座りませう
- (ロ) 庶物中より談話材料を取らんと欲せばまづ如何なる種類が最も幼兒の好みに適ふべきかを考ふべきこと
- (リ) 一庶物話をなさんと欲せば其材料中如何なる點が最も幼兒の興味を惹起すべきかを考へ該談話をして幼兒にとりては感興なき死物なるに終らしめざる様に注意すべきこと
- (ニ) 庶物話は必ず實物標本繪畫等につき具体的に之をなし且つ種々巧なる發問をなすことにより幼兒等をして其觀察を十分ならしむる所謂開發的方法を採るべきこと
- (ハ) 庶物話は特に室内保育に於てのみならず、ものでなく遊園に於ける隨意遊びに於てなざるゝ場合が最も多く且つ庶物に關する知

- (ト) 實物標本繪畫等は全組凡ての幼兒をして十分觀察し得しむる様見せ方に注意すべきこと
 折角骨折りて描きたる繪畫も保育者の立てる位置如何により半かくれて一部の幼兒に見えざる事あり形小さき標本を遠方より示して後席の兒には其大体さへ見とり得ざる事あり注意すべし、
- (チ) 庶物話と季節の關係に注意し櫻の話などを七草の話を初夏になす等の事あるべからず寓言童話其他の庶物を中心として作られたる談話をなす際にはまづ豫め之に關する庶
- (ヘ) 識はなるべく此の場合に於て不知不識の間に收得し明瞭にせしむるが幼稚園保育の方法として尤も望まじきと、
 右につき遊園は單に運動目的に適ふ様設備せらるゝのみならず花壇樂園鳥籠獸檻等幼兒をして之に接して自ら種々の質問を發する様設備しおきて保育者よく其間に適當なる答を與へ得るの準備する様心掛け居るべ

物語をなし物其物の観察を終らしめし後本文の談話にうつるべき事、

(又)室内裝飾を新にする際例へば花を挿け代ふ

る時は新に飾らるべき花につき、掛物をかけたる折は其の繪につきて其都度一片の庶物語をなしかくをよしとする事

(ル)庶物語に於て幼児の未だ知らざる名詞を教

へ又は新觀念を授けたる時も決して其記憶

を強はず數回同事物を繰り返す事により不

知不識の間におぼえさすべき事

(フ)庶物語は上述の如く開發的方法によりてな

さるゝ事多きを以て幼児等の答へ方に注意

し話し方練習を併せ行ふに最も注意すべき

事、

繪畫掛物及標本等につきて、

實物標本繪畫等が談話の興味を添ふるため及び彼等の觀念を明了ならしめんがために用ひて大に効ある事は兒童が年少なほど實物教授が必要なのに照しても明かな事です百聞一見に如かずとか知らぬ事は詳しく言葉で説明して貰ひますよりは繪で

示された方がよく了解り繪で見るとは標本で標本で知るよりは實物といふ方が最もよく了解せられ従つて最もよく記憶せらるゝ等て御座いますから一方談話材料の選擇に注意すると同時に此等實物標本並びに繪畫の準備整頓に留意すべきで御座います、殊に童話寓話御伽噺等の内容は之に關する繪畫により事柄、理解を助け想像力を養ひ其談話の實像を思はしむるに缺くべからざる必要品で

御座いますから保育者は自分も描き繪師にも頼み

或は店頭に適當なるものを求めて十分の準備を致

し置くが宜しう御座います、尙ほ是等取扱ひにつ

き例により注意條項を述べませう、

(イ)繪畫は保育用に用ふると同時に室内裝飾にも

適する様或は掛圖に或は掛物に又は額面等に

美的に作り置くべき事、

(ロ)標本及繪畫等は清潔に整頓をなし置くべし破

れたる古物を幼兒の前に提出するが如きは穢

上忌むべき事

(ハ)繪畫を新調せんとする際は談話中の如何なる

部分を畫題にとるべきかに注意し最も多く幼

兒の興味を惹起し且つ了解を助くるものをとるべき事但し幼兒をして繪を愛するの美感を養はんため色彩其他に注意し高尚優美なるものを得ん事に心掛くべし

(二) 保育者の一舉一動が幼兒の躰上大なる影響を有する所以は已に述べたる如くなれば標本繪畫其他の取扱法の如きも保育者よく之に留意し一葉の掛幅を板上に掛くるに際しても或は一方に偏し或は其紐の繪面上に垂れかゝれる等のをなく正しく手際よく掛くるに慣れ置くべき事

(ホ) 斯くして提出されたる繪畫標本實物等は遺憾なく保育者に利用せられ幼兒に觀察せらるべく準備に要せる苦心をして水泡に期せしむる事あるべからず
(ハ) 童話御伽噺事實話等事柄を話す談話につき繪畫を用ふる際には談話中何時之を提出すべきかに注意し幼兒をして成るべく其繪の意味を自ら了解し想像せしめ且つ精密に觀察せしむるを要す繪畫中に描かれたる内容を細かに

話し聞かしたる後に同繪畫を提出する如きは幼兒の期待心を減し且つ幼兒をして其心意を活動せしむる餘地を得ざらしむる無益なる提出法といふべし繪畫を生かして用ふるも保育上死物たらしむるも其提出の工合によりて左右せらるゝものとす

(ト) 繪畫に關しては幼兒をして其の繪の趣味を味はしむる様留意すべき事折角春のうららかな所をかき表はして繪には係らず唯其話の筋書に關した事のみ話して、春の日の趣味さては奥山の風景等の趣を感せしめざるは遺憾な事

(チ) 保育者と黑板畫
繪畫の序に申しますが保育者は黑板畫を心得て居ると至極便利で御座います幼兒には少し面倒な事になると言語上の比喩又は説明では中々了解が出来ません斯る場合に保育者が判話しつゝすらく々と板上に其略圖なりと、手際よく書き示す事が出来ずならばどればと便利か知れませぬ是非少しは心得ておかねば

なりませぬまい
(リ) 二つ以上の繪畫を板上にかへける事は幼兒の

注意を一方に集めさせる上に不利益な様に考へられますが一談話に關する繪ならば談話の進行につれ一枚より二枚と並べ掛けてさしつかへがわりませぬ

(ヌ) 小人数の幼兒等と隣居して談話する折には何事も家庭的にやれますから繪を示す折などにも學校らしく鞭などを用ひず指した方が見よくもあり危険でもなくて宜しう御座います但し鴛竿は小奇麗なのを一本用意いたしてかきたいものです

幼稚園に於ける幼兒保育の實際

某 女 史

五談

談話は幼兒の最も好む所にしておもしろし、大抵は黒板の前に腰かけを二別に並べてなしたり、廣く一列に並べてなせしこともありし

が話しをする人に遠き子供は亂れ勝ちとなり易し、

たゞ空に話すはむづかしく大抵繪を示して繪とさきの如くなしたり、又二度目三度目の話の時には成べく發問的になし幼兒の知れることは話さしめぬ、

時には前に出で話さしむることありたり、はじめの内多くは話す積りにて前に出ながら話し得て歸るものありたり、然れどもかゝるものも大に其勇氣を賞しやりたり

今迄の内にて一番好みしものはやはり桃太郎なり、五六度もなせしが尙飽く様もなかりき桃太郎の話をなせし當時一の組のものが原三七を桃太郎として遊びくれしに三七眞に桃太郎となりて一の組のものを鬼となしこれを征伐せんとして一生懸命に追ひかけしは骨稽なり

き、舌切雀などはあまりおもしろからず又話し憎かりき、

六唱

入園當時より唱歌は別段に教へしと云ふほど